

令和4年度 社会福祉法人静岡福祉事業協会事業報告

当法人は伝統ある社会福祉法人として、法人の経営理念及び運営基本方針に基づき、適切な福祉施設の運営に努めた。

千代田寮においては例年通り、施設的环境整備・食育の一環として、外庭の菜園スペースでさつまいもやスイカなどの栽培を行った。菜園の管理や水やりを、千代田寮の児童と千代田保育園の園児が共同で行って生育を見守り、自然と触れ合う機会を増やし、植物を大切に育てることにより児童への情操教育を実践した。

この他、敷地内の花壇には、季節ごとに色彩豊かな花々を植栽し、芝生と調和したヒーリングガーデン効果による利用者への癒しの提供に努めた。

また、千代田寮館内の共用部分の壁紙の張替と壁面塗装工事を施工し、気持ちの良い環境にリフレッシュした。

千代田保育園においては、玄関口にカメラ付きインターホンの設置と注意喚起の表示を行い、関係者以外の園内への進入を抑止・制限するとともに、事務室のモニター画面の映像と通話で確認できるようにすることで安全性を高めた。また、経年劣化により不具合があった大型遊具（幼児用滑り台）等を改修し、安全・安心な保育遊具の整備を行った。

社会福祉法による『地域における公益的な取組を実施する責務』の一環として実施している会場貸出などの一部の活動は、新型コロナウイルスの影響により引き続き制限せざるを得ない状況となったが、上足洗自治会によるS型デイサービスの実施の他、千代田寮における施設退所者への継続的な相談支援や、トワイライトステイ事業への取り組みは、コロナ禍によって衰退させることなく積極的に推進した。

I 施設運営事業報告

1 母子生活支援施設『千代田寮』の支援世帯数の状況

令和4年度は、千代田寮入所定員30世帯に対し、前年度末の在所世帯は25世帯であったが、8世帯が自立等により退所し、新たに9世帯が入所したことにより、3月末現在では26世帯の在所状況となった。

（詳細報告は千代田寮事業報告書記載のとおり）

2 保育所『千代田保育園』の保育園児の状況

令和4年度は、千代田保育園利用定員180人に対し、新入園児29人を迎え、年度当初の在園児は169人であったが、途中7人が転居等により退園し、新たに17人が入園したことにより、3月末在園児数は179人となった。

（詳細報告は千代田保育園事業報告書記載のとおり）

II 役員会議等事業報告

1 理事会の開催

(1) 令和4年度 第1回理事会

期日 令和4年6月9日(木)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和3年度事業報告
 - ② 令和3年度本部及び施設拠点区分収支決算
 - ③ 令和4年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算
 - ④ 令和4年度定時評議員会の開催

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 職務執行状況について

(2) 令和4年度 第2回理事会

期日 令和4年11月10日(木)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 評議員候補者の推薦
 - ② 評議員選任・解任委員会の開催

報告事項

- ① 令和4年度上半期事業実施状況報告
- ② 令和4年度上半期収支予算執行状況報告
- ③ 施設利用者の権利擁護に関する取扱要領
- ④ 職務執行状況報告

(3) 令和4年度 第3回理事会

期日 令和5年3月9日(木)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 処遇改善の実施
 - ② 令和4年度第2次補正予算
 - ③ 令和5年度事業計画
 - ④ 令和5年度収支予算
 - ⑤ 定款細則の一部改正
 - ⑥ 事務決裁規程の一部改正
 - ⑦ 給与規程の一部改正
 - ⑧ 評議員候補者の推薦
 - ⑨ 評議員選任・解任委員会の開催
 - ⑩ 令和4年度第2回評議員会の開催

報告事項

- ① 評議員の選任(評議員選任・解任委員会議事録)

2 評議員会の開催

(1) 令和4年度定時評議員会

期日 令和4年6月27日(月)

場所 (福)静岡福祉事業協会

議題 ① 令和3年度本部及び施設拠点区分収支決算

② 令和4年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算

報告事項

① 社会福祉充実計画について

② 令和3年度 事業報告

(2) 令和4年度第2回評議員会

期日 令和5年3月28日(火)

場所 (福)静岡福祉事業協会

議題 ① 令和4年度第2次補正予算

② 令和5年度事業計画

③ 令和5年度収支予算

3 監査の実施

(1) 当法人の監事による決算監査

・対象 令和3年度事業執行状況及び経理状況

・実施期日 令和4年5月26日(木)

・監査結果 令和4年5月26日(木)

① 事業報告等の監査結果

一 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(2) 当法人の監事による定期監査(中間監査)

・対象 令和4年度上半期、事業執行状況及び経理状況

・実施期日 令和4年10月21日(金)

・監査結果 令和4年10月21日(金)

令和4年度上半期分(令和4年4月1日～令和4年9月30日)の社会福祉法人静岡福祉事業協会の事業、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正であると認めます。

(3) 静岡市子ども未来局幼保支援課による令和4年度の「千代田保育園」の指導監査

- ・対象 千代田保育園
- ・実施期日 令和4年9月2日(金)
- ・監査結果 文書指摘事項 なし

(4) 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課による令和4年度の「千代田寮」の指導監査

- ・対象 千代田寮
- ・実施期日 令和4年10月28日(金)
- ・監査結果 文書指摘 なし

4 評議員選任・解任委員会の開催

(1) 令和4年11月16日(水)

- ・場所 (福) 静岡福祉事業協会
- ・議題 評議員の選任
退任した評議員 五十右恵子
選任した評議員 工藤弘子

(2) 令和5年3月22日(水)

- ・場所 (福) 静岡福祉事業協会
- ・議題 評議員の選任
退任した評議員 小林壽江
選任した評議員 原田康司

5 法人内部の運営会議

下記の運営会議を実施し、法人組織の強化、健全な施設経営の推進に努めた。
(経営環境と経営状況の把握・分析に基づき経営課題を明確にし、具体的な取組方法等を協議した。)

(1) 千代田寮運営会議：毎月第2水曜日(月例)

- ① 実施回数 12回
- ② 会議事項
 - ・月間事業実施状況
 - ・母子生活支援に係る懸案事項等の調整
 - ・入所者支援充実、常に選ばれる施設になるための具体的方策
 - ・その他

(2) 千代田保育園運営会議：毎月第3水曜日(月例)

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・ 月間事業実施状況
- ・ 保育に係る懸案事項等の調整
- ・ 質の高い保育の提供、保育園児を確保するための具体的方策
- ・ その他

(3) 法人本部運営会議：毎月第1水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・ 月間事業費執行状況（月次試算表の状況）及び月次経営成績
- ・ 施設利用者数確保のための具体的方策
- ・ 法人経営、組織等に係る共通事項・懸案事項等の調整
- ・ その他

令和4年度 千代田寮事業報告書

様々な事情により生活困窮となって入居した母子が心身の回復を図り、希望を持って自立を目指すことができるようそれぞれの状況に応じてきめ細かな支援を行った。

令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大を警戒しながらの運営となり、当施設においても7名の母、17名の子ども、2名の職員の感染が確認された。幸いなことにクラスター的な事態や、入院等を要する重症化に至ったケースはなく、施設運営に支障が生じることはなかった。また、牧之原市で発生した園児バス置き去り死事件を受けて、入居している子どもたちの安否を確実に把握するため、登校・登園状況も含めて、毎朝、職員がすべての子どもたちの様子を目視で確認することとした。

令和5年3月1日現在、27世帯が入居し、そのうち17世帯が夫などからの暴力が理由であり、生活、就労面での支援に加え、健康面、心理面についても丁寧な支援を心がけた。また、知的障害、精神疾患などにより日常生活に課題を抱えている母親は13名、子どもは11名おり、関係機関と連携してより多面的で個別的な支援を行った。

1 月別利用世帯数

(単位:世帯)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日世帯数	25	25	24	25	25	25	25	29	30	29	28	27	-
初日入所	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4
入所(中途)	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	5
退所	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	2	8
月末世帯数	25	24	24	25	25	25	26	30	29	28	27	26	-

※入退所理由

入所(9世帯)	夫などからの暴力7、不適切な家庭環境1、住宅事情1
退所(8世帯)	自立7、復縁1

2 利用世帯の状況(令和5年3月1日現在)

(1) 利用者数

母親	児童	計
27人	44人	71人

(2) 利用理由

夫などの暴力	不適切な家庭環境	母親の心身の不安定	住宅事情	計
17世帯	5世帯	1世帯	4世帯	27世帯

(3) 出身地

県内	県外			計
	関東	甲信越	東海	
12世帯	13世帯	1世帯	1世帯	27世帯

(4) 児童の状況

乳幼児	小学生	中学生	高校生	計
22人	13人	8人	1人	44人

(5) 利用期間

1年未満	1年	2年	3年	4年	5年	7年	計
8世帯	4世帯	5世帯	2世帯	3世帯	1世帯	4世帯	27世帯

3 母親に対する支援

(1) 日常生活支援

- ・新しい生活ができる限り円滑に開始できるよう転校や生活保護申請といった利用開始直後の手続きに職員が同行するとともに、初期面接の機会を設け、母親の気持ちや利用に至るまでの経過などを丁寧に聞き取った。
- ・家事、子育て、健康などに関する相談に随時応じるとともに、必要に応じて買い物や病院受診等に付き添い、安定した日常生活を送ることができるよう支援した。
- ・母親がより深刻な生活上の不安や困難を抱えた時には個別相談を設定し、母親の訴えを丁寧に聞き取って対応策をとともに考えるなどした。また、必要に応じてフォロー面接を定期的実施した。

【個別面接の主な主訴内容】

- ・心身の悩み
- ・人間関係
- ・子育ての不安
- ・将来への不安
- ・生活全般の悩み
- ・自分の生育歴への怒りやその整理
- ・離婚調停や裁判中はそのことへの不安や恐怖

【その他の支援】

- ・離婚協議時の弁護士との連絡調整や裁判への同行支援
- ・住民票移動がない状態での各種手続きへの同行支援
- ・退寮時の地域支援ネットワークづくり
- ・ケースネット会議参加による関係機関との連携

○支援実績

(単位:回)

区分		上半期 (R4.4~9)	下半期 (R4.10~R5.3)	計
個別面接実施回数		805	1,037	1,842
ケースネット会議出席		1	7	8
関係機関への情報提供		687	1,077	1,764
内 訳	市役所・区役所	496	679	1,175
	警察署	8	13	21
	弁護士	20	58	78
	学校	96	197	293
	児童相談所	31	57	88
	病院	36	73	109
同 行 支 援	役所・買物・家事援助	386	424	810
	家庭裁判所・弁護士	1	14	15
	主治医訪問	9	36	45

(2) 障害のある入居者への支援

- ・知的、精神的な障害のある入居者には、意図が誤って伝わらないよう意思疎通を確実にするため、会話の際は相手の事情に応じてわかり易い言葉を使い、場合によっては紙に書くなどの対応を心がけた。
- ・生活基盤を整えるため、より日常生活に踏み込んで家事援助や育児支援を行ったほか、金銭管理、買い物や各種手続きへの同行などの支援を行った。
- ・手当の受給や障害者手帳の取得など利用可能な福祉サービスの申請をアドバイスするとともに、書類の記載など手続きについても支援した。

(3) 就労支援について

- ・経済基盤の確保や社会参加の促進を図るため、母親の希望や適性に沿った就労先が確保できるよう支援した。
- ・生活保護家庭の場合は、葵区福祉事務所生活支援課の就労支援員と連携して就労先の確保に努めたほか、障害等を抱える母親に対しては、医療機関、相談支援事業所と連携して作業所での就労を進め、母親の状況に応じて就労内容、時間を考慮するなどきめ細かく対応した。
- ・人材紹介を専門とする企業（株式会社東海道シグマ）と連携し、適性診断や専門研修などを通じて母親に合った就労先確保に取り組んだ。令和4年度では、1名の母親が就労を継続し、1名の母親が研修を開始した。

(4) 保育支援

乳幼児を抱える母親が就職活動を行う場合や、体調不良により子どもの看護が困難な場合に、保育室での一時保育や保育園等への送迎を行った。

○令和4年度 保育実績

(単位:件、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	28	27	24	47	60	48	69	64	54	48	49	50	568
人数	30	39	27	72	75	60	81	74	65	52	51	56	682

4 児童に対する支援

(1) 日常生活支援

- ・遊びや学習などの機会を通じて子どもたちの心の安定を図るとともに、挨拶をする、礼儀やルールを守る、他児と仲良く過ごすなど円滑な社会生活を送るためのスキルが身につくよう子どもたちを支援・指導した。
- ・日々の生活場面での現れを観察するとともに、遊びや学習での会話をきっかけに気になる様子が伺えれば、面接を投げかけて行ったほか、子どもからの希望があれば随時面接を行った。

【主な主訴内容】

- ・学校生活の対人関係や学習、進路のこと
- ・千代田寮での生活のこと
- ・母や父との関係
- ・友達とのこと

(2) 学習支援

- ・入居前の虐待やDVなどにより学習環境が整っていない児童が少なくなく、学習習

慣を身につけさせて学力の維持・向上を図るため、学習場所を確保し、担当職員を配置して「勉強する」機会を設けた。

- ・中学生、高校生を対象に学力の向上や職員、他児との交流を深めるための学習会を24回実施した。

○令和4年度 学習指導実施回数児童参加人数 (単位:日、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日	20	18	22	20	21	20	18	20	20	18	17	20	234
参加人数	174	155	172	184	278	220	186	231	212	161	143	194	2,310

(3) 性教育の実施

子どもたちに性について正しく理解してもらうとともに、子ども同士の間で性的な加害・被害のトラブルを防止するため、新小学1年生、年度途中の入居児を含む小学生全員に対して、個別に性教育を実施した。令和4年度は、14名の小学生に実施した。

5 心理支援

- ・夫などからの暴言・暴力により心理的ダメージを受けて精神的不安定さを抱える母親や、元々精神疾患を抱え不安感が強い母親に対してカウンセリングを行い、母親の安心感、安全感の再形成及び自信回復等を図った。
- ・母だけでなく子どもたちも父親からの被虐待経験を引きずっていたり、母親とうまく関係が持てなかったりして心理的な不安定さを有していることがあるため、カウンセリング、遊戯療法等を通じて心の安定を図った。

○カウンセリング等実績

区分	対象者数	回数(延べ)
母	13人	159回
児童	7人	22回

6 行事の開催

利用者は厳しい事情を抱えて入居し、余裕のある生活が難しいことも少なくないため、少しでも生活の中に楽しみやリフレッシュの機会を持ってもらうとともに、利用者同士、また利用者と職員の交流を図ることを目的に各種行事を実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、いくつかの行事を中止したり、内容変更したりした。

【4年度年間行事】

- 4月 1年生を迎える会 児童29名参加
中高生食事会 児童2名参加
母の日プレゼント制作 児童33名参加
- 5月 児童文化奨励絵画展出品 (県養協主催) 児童5名出品
- 7月 七夕会 児童47名参加
- 8月 夏休み児童バーベキュー 児童22名参加
スイカ割り 児童20名参加

- 夏休みバス遠足 児童 21 名参加
- 10月 サツマイモ掘り 児童 19 名参加
- ハロウィン 児童 44 名参加
- 11月 焼き芋会 児童 51 名参加
- 12月 クリスマス会 児童 39 名参加
- 1月 新年会（餅つき大会）母子 57 名参加
- 2月 節分会 児童 47 名参加
- 3月 ひなまつり会 児童 49 名参加
- 絵画展入選児童食事会 児童 4 名参加
- 中高生食事会 児童 3 名参加

7 職員研修

- ・令和 4 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、県や関東ブロック施設協議会が主催する研修が中止又はオンライン研修となり、スキルアップのための場を十分に確保することができなかった。
- ・施設内研修では、各担当が利用者の現況と課題、今後の対応について、毎月のケース会議で報告し、職員全員で内容を共有することにより担当世帯はもとより担当外の世帯についても理解を深めて意見を交換する場となり支援技術向上の良い機会となった。

○ 外部研修（オンライン研修）

- 4月 福祉職員キャリアパス研修 中堅職員コース
- 5月 コンプライアンス講座
- 6月 簿記入門講座
- 7月 女性保護・DV 相談担当者研修会
- 第 61 回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会
養育費等に関する研修
- 11月 静岡県年金委員・健康保険委員研修
- 女性相談担当職員等研修会
- 静岡県福祉職合同入職式出席者のためのフォローアップセミナー
- 発達特性のある子どもの自尊感情を高める性に関する指導
- 1月 児童福祉施設等における暴力防止研修会
- 2月 関東ブロック母子生活支援施設協議会施設長・職員合同研修会
- 3月 児童福祉領域における心理職のグループスーパービジョン
- 社会福祉法人・社会福祉施設運営管理研修会

○ 所内研修

- ケース会議、テーマ別研修、母子支援員ミーティング、少年指導員会議

8 実習学生の受入れ

将来、社会福祉に携わる人材の養成・確保を支援するため、大学等からの依頼に基づいて実習学生を受け入れた。

令和 4 年度は、県内大学・専門学校 6 校から 17 人を受け入れた。

12 地域との交流

- ・学習室を毎月第1、3水曜日に町内の高齢者デイサービスの会場として提供した。また、駐車場は毎朝、地域のラジオ体操の場となっているほか、12月には防災訓練の会場としても利用していただいた。
- ・清水エスパルスからは例年、支援を受けており、令和4年度もエスパルス福祉基金から寄付金の寄贈を受けた。
- ・市内外の事業所、団体、個人から、化粧品、食料品などの寄贈を受けた。(ロクシタン ジャパン㈱、餃子の王将、㈱カーブスジャパン静岡曲金店ほか)

13 広報・PR活動

施設の認知度向上を図り、利用に繋げるため、千代田寮の特色や魅力を分かりやすく紹介した資料を利用が期待できる県内や隣県、関東地方の福祉事務所に送付した。

【送付先】

県内… 市町の女性相談担当課及び2政令市各区の福祉事務所 32か所

県外… 東京・千葉・埼玉・神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知・三重・京都・奈良

市町村の女性相談担当部署 229か所

14 環境整備

- ・快適な施設環境を維持するため、職員自ら高圧洗浄機により玄関周辺の壁、天井等をクリーニングしたほか、芝生園地の芝生再生に取り組んだ。
- ・学習室に備え付けている2台の空調設備のうち1台が故障したため、新たな機種に交換した。
- ・畑には子どもたちも参加してサツマイモを植え、秋に収穫して焼き芋会を開催し、母と子が楽しんだ。また、花壇には季節ごとにその時期に開花する花を植え、四季を通じて彩を楽しめるようにした。

15 第三者評価受審

母子生活支援施設などの社会的養護を担う施設にあつては3年に1度、評価機関による第三者評価を受審することが義務づけられている。令和4年度は受審を要する年度であり、令和4年10月27日に株式会社中部評価センターによる評価が実施された。結果は、評価項目70項目中約7割の48項目が「a」、残りの22項目が「b」との評価であった。

令和4年度 千代田保育園事業報告

子どもの生活環境や子育ての環境が大きく変化し、子育て支援に対する保育園の役割はますます深化・拡大している。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を強いられる環境下であったが、次の保育理念、保育方針及び重点目標に基づき、少しでも充実した保育が提供できるよう取り組み、この3月には第75回の卒園式を挙行し、34名の逞しく成長した子どもたちを8校の小学校へ送り出すことができた。

令和4年度は園児のバス置き死や不適切な保育等の問題が保育界に起き、保育に対する姿勢そのものが問われる事態となった。当園においては、保育の危機管理及び人権擁護について再確認して共通認識を図るなど、信頼される保育のための対策に取り組んだ。

<保育理念>

子ども一人ひとりの人格を尊重する。あそびを通して、乳幼児期に知識や思考の土台となる経験をたくさんすることで、子どもらしい生き生きとした生活が豊かに営まれるように保障していく。

<保育方針>

子どもたちをとりまく環境をより豊かにし、自ら考え、自ら行動し、健康で思いやりの心をもった子どもに育てる。

<重点目標>

- 丈夫な体
- 豊かな心

令和4年度年齢別月別在園児童数（定員180人） （単位：人）

月 年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	8	9	9	11	14	18	20	21	21	21	21	21	194
1歳	27	27	27	27	27	25	25	25	25	25	25	25	310
2歳	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396
3歳	33	33	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	389
4歳	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	34	34	414
5歳	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408
計	169	170	170	172	176	177	179	180	180	180	179	179	2,111

1 保育の実施状況

子どもたちが積極的に戸外に出て、水、土、泥、砂に触れ、五感をフルに使ってエネルギーを高め、想像力をふくらませ、乳幼児期に十分な「あそび」を体験できるよう心

がけた。併せて、他人と協調することや、子ども自身が自ら考え、自ら行動するといったことも重視し、子どもの頭と心と体がバランスよく育つよう配慮した。

(1) 裸足保育の実践

当園では、丈夫な体作りの一環として裸足保育に取り組んでおり、子どもたちの成長を確認する手立てとして、毎年全員の足型を取ることにしている。足型の記録を見た研究者からは、「足指の筋力が著しく発達していることがよくわかる。」との評価を頂いた。また、年齢ごとの体作りについても、何年か先の成長を見通し、今の時期に必要な体の使い方を意識しながら保育を行った。

(2) 自然と触れ合う体験

天気の良い日には、四季折々の自然を感じながら近くの公園や田んぼ、空き地に出かけた。秋の谷津山登りでは、山頂までの道のりを、年長児・年少児のペアが手をつないで歩き、年長児がペアの年少児を気遣いながら歩く姿が見られた。また、園庭では、ダンゴムシ、チョウ、トンボなど様々な虫と触れ合うことができ、夏には子どもたちはセミ捕りに夢中になっていた。

(3) 水・砂・泥あそびの推進

夏は毎日、全クラスがプール遊びを楽しんだが、新型コロナウイルス感染予防のため、人数制限や入れ替え制などの配慮をしての実施となった。また、冬でも暖かい日には、井戸水の蛇口をひねり、容器の中に水を入れたり、こぼしたりして水の感触を楽しんだ。

砂場では、子どもたちは山や川を作ったり、穴を掘ったりして友達と創造力を膨らませながらあそびを発展させていった。また、「ピカピカだんご」作りは、砂の選び方、泥の水加減、磨き方等を工夫する必要があると、子どもたちは試行錯誤しながら取り組んでいた。

(4) 絵本、紙芝居等に慣れ親しむ機会の確保

家庭では、子どもたちの遊びはテレビ、DVD、ゲーム、YouTube等が中心となっており、その影響が心配される。園では幼児を対象に童話会を月1回開催し、年中年長児には、隔月で読み聞かせの日も別に設けるなど、朝、夕の時間も有効活用しながら、絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しむ機会をなるべく多く持つようにした。

保護者にも図書コーナーに関心を寄せてもらうため、毎月の園だよりに、職員のお薦め絵本を掲載したほか、乳児クラスの各部屋にクラス文庫を用意し、親子で利用できるように整えたところ、毎日、絵本を借りて帰るのを楽しみにしている親子の姿が見られた。

(5) 食育の推進

「食育」の一環として、クッキング保育（カレーづくり、へそもちづくり、ホットケーキ作り等）を取り入れている。また、給食職員が年長児クラスに赴いて、子どもたちと一緒に、園で栽培したしいたけやお米を使った「しいたけせんべい」を作った。こういった調理体験を通じて、調理する人の大変さを知るだけでなく、子どもたちから給食職員に対して、「ありがとう」「おいしかった」と声をかけることが増えた。

初夏には、子どもたち自身でミニトマト、ナス、きゅうりなどの野菜づくりに取り組んだほか、千代田寮の畑を借りてさつま芋栽培も行い、苗を植えるところから始め

て、草取り、水やりを経て収穫した芋を蒸しパンやふかし芋にして食べるなど、食に関する様々な体験を通じて子どもたちの食への関心を高めることができた。

また、年長児以外の保護者にも食育に興味をもってもらえるよう園だよりに食育に関する記事を掲載した。

2 保護者支援と子育て支援

子ども一人ひとりの発達や保育方法、家庭状況、今抱えている問題などについて、保育士同士が意見や情報を交わす場（職員会議、代表会議、幼児・乳児会議）を設け、園全体で情報共有を図った。その結果、担任だけが抱え込むのではなく、全職員（保育士以外の職員も含め）で園児と保護者を支えるという意識につなげることができた。

保護者懇談会は、新型コロナウイルス感染のリスクを考慮し、年長児クラスのみ開催した。他のクラスについては、クラスだよりの発行や、日々の子どもの様子を写真に撮り、コメントを付けてクラス内に掲示するなどして園からの情報発信を強化したほか、保護者が希望する場合は、担任と個人面談を行う機会を設け、保護者の不安・心配に寄り添うよう努めた。

3 発達が気になる子どもへの支援

発達が気になる子どもについて、それぞれの特性に合わせた支援を行うとともに、職員の支援スキルを高めるため、静岡市発達障害支援センター「きらり」から年2回支援専門員を招き、支援検討会を開催した。

また、年1回ではあるが、静岡大学教育学部教員による巡回指導・支援を受けることができ、就学前の年長児保護者との面談に同席していただき、子どもの特性や関わり方などについて、適切な助言をいただいた。

関係機関との連携にも取り組み、言語教室や保健所と連携して子どもの現れを共有しながら特性に合った就学先や療育機関の確保につなげることができたほか、本年度初めて療育機関による保育所訪問支援を受け入れ、年少児1名、年長児1名に対して、月2回の訪問があった。

4 地域との交流

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、園児の祖父母の保育園への招待や、地域の高齢者福祉施設への訪問を見合わせた。また、保育所が地域の中で親近感と信頼感をもたれる施設となることを目的とした“おしゃべりサロン”については、消毒、検温等を行いながら実施し、5月の「気のいい羊」以外はすべて実施した。

5 年間行事

- 4月 1日 入園式。新入園児 29名
- 5日 お花見散歩
- 19日 新入園児・在園児対面式（101名）

- 5月11日 おしゃべりサロン（気のいい羊）※コロナ感染状況を踏まえ中止
園内開催とし、年中児、年長児のみ参加
17日 幼児組日本平動物園遠足、※中止
- 5月25日 幼児組交通教室
29日、31日 嘱託医による健康診断（170名）
- 6月2日 嘱託医による歯科検診
3日、8日 保育参観 ※コロナ感染状況を踏まえ中止
10日 おしゃべりサロン（「保健師の話」 参加者3組）
16日 プール開き
24日 消防署職員による花火教室（幼児クラス）
- 7月1日 おしゃべりサロン（「歯科衛生士の話」 参加者1組）
8日 千代田まつり（幼児クラスのみ参加。見学は年長保護者のみ）
22日 「お楽しみ会」 ※中止
28日～8月3日 プール参観 ※コロナ感染状況を踏まえ中止
- 9月2日 プール納め
8日 おしゃべりサロン（「タッピングタッチ」参加者3組）
9日 へそ餅づくり（年長児）
- 10月8日 運動会（競技内容、時間等を縮小して幼児のみ参加。保護者見学は各組
入替制で実施）
12日 おしゃべりサロン（「園庭であそぼう」 参加者6組）
20日 谷津山遠足
25日 さくら組、たんぽぽ組保育参観
26日 「るくる」サイエンス教室
27日 たんぽぽ組保育参観
- 11月1日 防災訓練
9日 おしゃべりサロン（「身近な素材を使って作ってみよう」参加者3組）
10日 みかん狩り
15日 七五三の祝会・餅つき（れんげ組～こすもす組）
24日、25日 嘱託医による健康診断
- 12月1日 嘱託医による歯科検診
10日 生活発表会（幼児のみ参加。保護者見学は各組入れ替え制で実施）
13日 おしゃべりサロン（「園庭開放」 参加者5組）
23日 「クリスマスのお楽しみ会」

- 1月 6日 どんど焼き
- 11日 凧揚げ（城北公園）
- 20日 シルエット劇場（年長児）
- 26日 おしゃべりサロン（「読み聞かせ」 参加者 7組）
- 27日 年長児親子遠足

- 2月 1日 年長児交通教室
- 3日 豆まき
- 7日 おしゃべりサロン（「お店屋さんごっこ」 参加者 6組）
- 28日 たんぽぽ組保育参観

- 3月 3日 ひなまつりの会（幼児の集いのみ実施）
- 18日 第75回卒園式（年長児 34名）

※月間行事

- ・身長体重測定
- ・誕生会、童話会
- ・避難訓練
- ・職員会議
- ・絵本の読み聞かせ（年長・年中で隔月）

6 実習生の受け入れ

常葉大学短期大学部（1名）、静岡福祉医療専門学校（1名）、
 静岡産業技術専門学校 こども保育科（1名）、常葉大学（2名）
 職場体験…安東中学校（3名） ※中止…焼津高等学校、竜爪中学校、西奈中学校

7 職員研修の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートによる研修もあったが、県保育所連合会、県保育士会、市保育士会、ときわ保育士会、日保協等参集しての研修会にできる限り多くの保育士を参加させ、資質の向上に努めた。

- | | |
|-----------|---|
| ときわ保育士会 | 理事研修：コロナ禍の保育の学び |
| 静岡県保育士会 | 保育士研修会：あなたに歌を届けたい
要支援児の保護者に対する支援 |
| 全国保育士会 | ●関東ブロック保育研究大会 |
| 日本保育協会 | ●キャリアアップ：乳児保育，保護者支援 |
| 静岡市子ども未来局 | ●安全管理講習会 |
| 静岡県保育連合会 | 施設長研修：保育情勢
●子どもの遊びをつなぐ幼保小接続
●キャリアアップ：障害児保育，幼児保育，乳児保育
マネジメント、保護者子育て支援 |

常葉大学	●福祉施設で働くというライフプラン
静岡県立短期大学部	●保育実習連絡協議会
静岡県福祉協議会	若手・中堅職員が今できること 苦情解決能力の向上を目指して
	●第三者評価事業啓発研修会
静岡県教育委員会	●幼保小架け橋プログラムについて
静岡人材啓発セミナー	子どもと大人 温かい絆づくり 中止
静岡市施設長研修会	●子どもの人権擁護、虐待防止
静岡市発達障害者支援センター	●発達障害がある子への療育
静岡市私立園長会	自然遊びの可能性 園内で取り組む保育の質を高める工夫
静岡市医師会	●乳児保健研修会
	●静岡県コロナなど感染症に対する
その他	●「ICT を上手に保育に取り入れる」 (●：オンライン研修)。

8 他機関との会議等への参加

下記会議等に園長、主任が出席し、協議及び情報収集を行った。

- ・ときわ保育士会、静岡市保育士会、静岡県保育士会等の総会
- ・県保育所連合会、県中部支部等の総会
- ・私立園長会
- ・ときわ保育士会役員会、理事会
- ・城東子育て支援センター

9 一時預かり事業

在園児以外の近隣住民の乳幼児を預かることによって、地域で安心して子育てができる環境整備に寄与した。

(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	4	4	6	0	0	3	3	0	0	0	0	0	12

10 保護者アンケートの実施

例年、園の運営方針、施設環境、保育内容等に関する保護者アンケートを実施している。令和4年度は、143世帯を対象に行い、回収率は68.89%であった。「保育方針と実際の保育は一致しているか」、「子どもは園生活を楽しんでいるか。」、「保護者からの相談に職員は誠意をもって対応しているか」、「給食やおやつは献立は工夫されているか」「お子さんの発達に合わせた様々な活動や遊びが行われていると思うか」などほとんどの項目で9割以上の保護者が「良い」と評価した。また、職員間で保育姿勢や

対応にばらつきがあると感じている保護者が前年度より減った一方で、「園からのお便りなどで日々の子どもの様子を知れるか」に対しては、評価が5%ほど下がった。

この結果を職員間で共有し、業務の振返りをするとともに、取組の改善や質の向上につなげていきたい。

11 危機管理対策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、児童及び送迎の保護者に対して検温、手指消毒を徹底したほか、園内での三密状態をできる限り回避するため、活動の小グループ化、行事の縮小・中止などの対応を行った。

地震や火災の発生に備え、子どもたちが安全かつ円滑に避難できるよう、毎月、避難訓練を実施した。また、不測の侵入者対策として、園への出入り口を駐車場側の1か所に限定するとともに、道路、駐車場に接する面に防犯カメラ4台を設置している。

昨夏も暑さが厳しかったため、熱中症対策として、各クラスのエアコンをフル稼働するとともに、幼児クラスには水筒持参をお願いし、乳児には麦茶を用意してこまめな水分補給を行うなど子どもたちの健康管理に留意した。

令和4年度は、園児のバス置去り死や不適切な保育といった重大な問題が保育界で起きた。このため、子どもの登園状況を出欠アプリや、電話連絡のメモ、各クラスでの目視、職員同士のやり取りなど複数の手段により確認することとしたほか、子どもの人権擁護について、グループ討議による園内研修を年2回行い、今後も継続していくこととした。